第２学年Ｂ組　技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

日　時　　令和５年 11 月４日（土）第１限
場　所　　２年Ｂ組教室（教室棟２階）
指導者　　林　歌織

１．題材　　よりよい家計管理について考えよう　～自分のこれからを見つめて～　　Ｃ（１）

２．目標

(1) 日常の家庭生活で消費する商品の種類やキャッシュレス決済を含む支払方法の仕組みや利点・欠点などを理解することができる。〔知識及び技能〕

(2) 将来，自分がどのような生活を送りたいかについて考え，家計管理に関する問題を発見し，課題を設定するとともに解決策を構想し，解決に向けて計画を立てることができる。〔思考力，判断力，表現力〕

(3) 家計管理について，課題の解決に向けて主体的に取り組み，よりよい生活に向けて改善策を実践しようとする。〔学びに向かう力，人間性等〕

３．題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・購入方法や支払い方法の特徴がわかり，計画的な金銭管理の必要性について理解している。	・家計管理に関する問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	・家計管理について，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，生活を工夫し創造し，実践しようとしている。

４．STEP との関わり

(1) 家庭科としてのとらえ

本題材は，自分や家族の消費行動と学習内容とを照らし合わせながら学習を進めていく。消費生活に関する領域は，SDGs の 17 のゴールの中でも「8 働きがいも経済成長も」や「12 つくる責任つかう責任」と関連していると考える。そのため，STEP で生徒たちが取り組んでいる研究テーマの多くが私たちの消費生活のあり方と関わっており，日常の家庭生活を見直したり，生活の中に問題を見つけ改善したりすることは欠かせない。同様に家庭科の学習においても，自分や家族の生活と社会や環境との関りを考えながら，「よりよい家庭生活」「より豊かな家庭生活」の実現に向け，主体的に取り組む実践力や態度の育成をめざしている。このように家庭科とＳＴＥＰは往還しており，結びつく要素が多いと考える。

(2) 育成したい資質・能力について

家庭科の問題解決的な学習を通して，８つの資質・能力を育成することが可能だと考える。本題材においては家計管理について，モデル人物の家計を事例としてとりあげ，問題を見いだしその解決に向け

（【問題発見】【問題解決】）グループで意見を出し合い（【協働】【伝達・発信】），収支バランスを図るための工夫を考える学習課題に取り組ませる（【根拠】【じっくり・いろいろ】【アイディア】【振り返り】）。この活動を通して，8 つの資質・能力の育成に繋げていきたい。

５．題材について

本題材は，学習指導要領の内容 C「消費生活・環境」(1) 金銭の管理と購入のア（ア）「購入方法や支払い方法の特徴がわかり，計画的な金銭管理の必要性について理解すること。」と関連を図り，学習のねらいを設定している。 小学校での「金銭の計画的な使い方」の学習を踏まえ，生活に必要な物資・サービスの購入や支払いのための計画的な金銭管理の必要性や収支のバランスを図るための優先順位を考慮した調整の必要性を実感できるようにする。

中学生は，現時点では家庭の家計管理を営む主体とはなっていない。知るぽると 金融広報中央委員会（2015）「子どものくらしとお金に関する調査」（第 3 回）では，子どものお金にまつわる日常生活を調査している。その中では，中学生の 83.2%がお小遣いをもらっているものの，「毎日もらっている」が 1.9%，「1 週間に 1 回」が 7.0%，「月に 1 回」が 32.1%，「ときどき」が 47.8%と受け取る頻度は様々である。お小遣いの金額については，1000 円未満が 6.6%，1000～2000 円未満が 32.0%，2000～3000 円未満が 20.5%，3000～4000 円未満が 17.5%，4000～5000 円未満が 2.8%，5000 円以上が 9.4%となっており，受け取る金額についてもばらつきがある。そのため，共通して学習することができる題材設定がしにくい現状にあると考える。また，2018 年改訂高等学校学習指導要領解説 家庭編 家庭基礎 C 持続可能な消費生活・環境では，「家計管理については ，収支バランスの重要性とともに，リスク管理も踏まえた家計管理の基本について理解できるようにする。その際，生涯を見通した経済計画を立てるには， 教育資金，住宅取得，老後の備えの他にも，事故や病気，失業などリスクへの対応が必要であることを取り上げ，預貯金，民間保険，株式，債券，投資信託等の基本的な金融商品 の特徴(メリット，デメリット)，資産形成の視点にも触れるようにする。」とあるように，従前以上に長期的な家計管理や資産形成について学習することが求められている。高等学校の家庭科での学習に接続していくためには，中学生の段階においておおまかな家計の収支や管理方法について理解しておく必要があると考えた。一方で先述したように，中学生はそこまで数千円のお小遣いを様々な方法で受け取り，そのお金で身近な商品を購入していることが推測できる。つまり，中学生の生活の実態と学習させたい内容との乖離があるのではないだろうか。そこで，本題材では次の点で教材の工夫をし，中学生の段階でも家計管理の方法について学習できるようにした。

1 点目は，各家庭により状況が異なることやプライバシーへの配慮から，モデル人物の事例を活用することとした。また，自分事として考えることが難しい生徒もいると考えられるため，モデル人物を中学生にとって近い将来の年齢（例えば，大学・専門学校進学後，新卒の時期など）や親近感がわくキャラクターに設定し，現実的で具体的な場面を想定した学習を展開する。2 点目は，日常的な家計管理では，使ったお金や得たお金などを 1 円単位で把握することとなるが，本題材では大まかな金額を扱うことで，緻密な金額の計算に陥らないように工夫した。3 点目は，収支のバランスを図る際には，生活の質を「節約」「基本」「ぜいたく」の 3 段階を設定し，衣食住などの暮らしに関わる支出のレベルを自分で設定できるように工夫した。

６．指導について

題材の構成としては，1,2 時間目は商品や支出細目，支払い方法について理解することをねらいとした。家庭生活で消費する物資・サービスには衣食住や電気ガス水等のライフラインに係る必需的なものや教養娯楽や趣味などに係る選択的なものがあることに気づかせ，生活者の誰もが消費者の一員であることを実感させたい。また，近年社会のデジタル化にともないキャッシュレス化も急速に進み，購入方法や支払い方法が多様化しているため，計画的な金銭管理に向けて，それぞれの購入方法や支払い方法の特徴を理解することが一層重要と考える。支払方法については，支払時期（前払い，即時払い，後払い）の違いによる特徴を理解し，状況に合わせ適切に使い分けることが大切である。また近い将来，所持する可能性があるクレジットカードのしくみ（三者間契約）や特徴（メリット・デメリット）についても理解させたい。3 時間目は，先述したようにモデル人物の立場で家計管理を行う。4 時間目は，突然の出費が発生した場合にどのように対処するとよいか，グループで話し合わせる。モデル人物（ひとり暮らし）の事例で具体的に考えさせる。生活に欠かせない冷蔵庫が故障したため，買い替えるという場面を設定し，計画的な支払い方やもしもに備える貯蓄について考えさせる。キャッシュレス化が進む中，クレジットカード払いで失敗し，自己破産になる若者も多い。クレジットカードの返済方法を３パターン（一括・分割・リボルビング払い）の違いを理解し，モデル人物にとって無理のない返済方法について考える。

７．指導と評価の計画（全４時間）　　○「評定に用いる評価」　●「学習改善につなげる評価」

時間	□ねらい　■学習活動	評価の観点			評価方法	育成したい資質・能力
		知	思	態		
第１時	□家庭生活での支出の種類と優先度がわかる。 ■生活で消費される物資とサービスをあげ，支出項目に分類する。 ■必需的な支出と選択的な支出の違いを理解する。	●		○	●ワークシート ○１枚ポートフォリオ	【じ】 【協】
第２時	□支払方法の種類とメリット・デメリットがわかる。 ■支払方法の種類と特徴を知る。 ■クレジットカードのメリット・デメリットを理解する。	●		○	●ワークシート ○１枚ポートフォリオ	【根】 【じ】 【協】
第３時 (本時)	□1 か月の生活費（ひとり暮らし）がわかり，収支バランスの調整ができる。 ■モデル人物の生活費を算出し，収入に合わせて収支バランスがとれるように工夫し，調整する。 ■家計管理を上手くするにはどうすればよいかを話し合う。		●	○	●ワークシート ○１枚ポートフォリオ	【根】 【じ】 【発】【解】 【協】 【振】
第４時	□突然の出費に対処する方法を考える ■生活に欠かせない出費にどう対処するとよい		●	●	●ワークシート，	【根】【じ】 【ア】

	か話し合う。 ■クレジットカード払いの具体的な返済方法を考える。				1枚ポートフォリオ	【協】 【振】

※育成したい資質・能力の表記は省略した名称で記述している。

根拠　⇒　【根】　　じっくり・いろいろ　⇒　【じ】　アイディア　⇒　【ア】

問題発見　⇒　【発】　問題解決　⇒　【解】　振り返り　⇒　【振】

協働　⇒　【協】　　伝達・発信　⇒　【伝】

8．本時の指導

(1) 目標　①1ヶ月の生活費がわかり，収支バランスの調整ができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕

(2) 指導計画（50分）

学習活動	○指導上の留意点　　◆評価	育成したい資質・能力
1．本時の目標を知る。 ・ひとり暮らしにかかる費用（1ヶ月）を予想する。	○本時は，1ヶ月の生活費（ひとり暮らし）とその収支バランスをとることについて学習することを知らせる。 ○1時間目の学習内容をふり返らせ，収入の範囲内で支出することが大切であることを確認する。	
2．モデル人物の理想とする生活に必要な生活費を算出し，発表する。 【グループ】	○各支出項目の条件を簡単に説明する。 ○Aさん，Bさん，Cさんのモデル人物のうち，グループで担当する人物をくじ引きにより決める。 ○その人物の生活をイメージしながら各支出項目を「節約」「基本」「ぜいたく」から選ばせる。 ○同じひとり暮らしでも，その人の特性やライフスタイル，生活の中で何を重視するかなどによってかかる生活費に違いがあることを確認する。 ◆各支出項目の意味がわかり，支出の算出ができている。（知）（ワークシート）	【根】 【じ】 【協】
3．モデル人物の収入に合わせて収支バランスがとれるように調整し，調整のために工夫したことを発表する。 ・家計管理を上手くするにはどうすれば良いかを話し合う。 【グループ】	○単に数字あわせをするのではなく，モデル人物の立場になって考えさせる。 ○最低限の生活費（必需的な支出）は必ず確保し，健康的な生活を送ることが大切であることをおさえる。 ○発表では，どのように考えてどの項目をいくら変更したかを発表させる。 ○記録する，アプリの活用，レシート保管など自分	【じ】 【根】 【発】 【解】 【協】

	にあった方法で管理することの大切さを伝える ◆収支バランスを工夫して調整している。 （知）（思）（ワークシート）	
4．本時の学習を振り返る。	○本時の学習を振り返り，授業でわかったことと，生活に生かしたいことを記入させる。 ◆学んだことを生活に生かす方法を考えている。（思）	【振】

＜引用・参考文献＞
知るぽると 金融広報中央委員会（2015）「子どものくらしとお金に関する調査」（第３回），https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/kodomo_chosa/2015/pdf/15kodomo.pdf（2023.10.23.最終アクセス）